

建設部会活動 報告書

中国本部建設部会

事業名称	公益社団法人日本技術士会 中国本部 建設部会 2023年度 建設部会 例会・第1回建設部会講演会		
実施時期	2023年6月17日(土) 13:00~17:30		
実施場所	広島、鳥取、倉吉、山口、島根の各会場での集合形式と中国本部会議室から Teams を使った Web 配信 (WEB 個人視聴) のハイブリッド方式で実施		
参加人数	例会 93 名 (広島 28 名、鳥取 2 名、倉吉 5 名、島根 4 名、山口 3 名、WEB 個人視聴 51 名) 講演会 125 名 (広島 28 名、鳥取 2 名、倉吉 5 名、島根 4 名、山口 3 名、WEB 個人視聴 83 名)	CPD	3 時間 30 分
事業内容 と感想	<p>中国本部建設部会の 2023 年度例会・定期講演会を以下のとおり実施した。</p> <p><u>建設部会例会 (13:00~13:30)</u></p> <p>・2022年度活動報告 ・2023年度事業計画 ・その他 (技術士CPD活動実績の管理及び活用制度)</p> <p><u>定期講演会 (13:40~17:30)</u></p> <p>【目的】 AI・IOT 活用による DX 推進は、2025 年までに DX 実現の課題を克服できないと大きな経済損失が生じる可能性があるという IT システム「2025 年の崖」の克服や生産性向上等を目的として、国・民間企業等で様々な取組みが行われている。このような背景のもと、幅広い分野での DX 推進に向けた取組み事例、今後の展望や施策について紹介いただくことで、建設分野での DX の取組みを加速化するための参考にしていただけたらと考えている。また、CPD 制度見直し等を踏まえ、会員への発表機会提供 (2 テーマ) により技術の相互研鑽とする機会も設けた。</p> <p>【講演内容】</p> <p>講演 1 : 13:45~15:00 演題「Society5.0 時代における衛星データの利活用」 講師：山口大学 大学院創成科学研究科 工学部循環環境工学科 教授 応用衛星リモートセンシング研究センター センター長 長井正彦氏</p> <p>講演 2 : 15:00~15:55 演題「製造業の DX 推進の現状と取組み事例」 講師：日本技術士会中国本部 機械/船舶・海洋/航空・宇宙部会 副部会長 池本裕二氏</p> <p>講演 3 : 16:05~16:35 演題「令和 5 年度 BIM/CIM 原則適用について」 講師：国土交通省中国地方整備局企画部技術管理課 豊田清光氏</p> <p>会員発表 1 : 16:35~17:00 演題「直轄国道地すべり災害における建設 DX を活用した効率的・効果的な災害復旧対応事例」 発表者：基礎地盤コンサルタンツ株式会社 糸原浩氏</p> <p>会員発表 2 : 17:00~17:25 演題「デジタルデータで建設現場が変わる～現場を見える化、明日を魅せる化～」 発表者：カナツ技研工業株式会社 高橋広幸氏</p>		



長井先生



池本氏



豊田氏



糸原氏



高橋氏



広島会場での例会の様子



広島会場での講演会の様子

【参加者状況】 申込者：139名（会員126名、非会員13名）

参加者：125名（各会場合計42名、WEB83名）

アンケート回答者115名（各会場合計36名、WEB79名、

うち中国地方外32名）

【評価】

- ① アンケートの8割を超える方が満足との回答があり、衛星活用、製造業の状況など異分野の話題と、BIM/CIMの導入に向けた取り組みといった身近な話題など多様な情報を得ることができたとのコメントが多かった。
- ② 会員発表も具体的なDX活用事例であったため、分かりやすく、興味をもって聞けたと概ね好評であった。
- ③ 一方で、講演数が多いためか「時間にゆとりがなかった」、「質問時間が短かった」などのコメントもあり、詰め込みすぎた感は否めない。
- ④ 参加申込は、会員は日本技術士会HPから、非会員はグーグルフォームからとしたため、参加者の集計とその後の対応をスムーズに行えた。なおこれは、参加者がほとんど会員であったことも要因のひとつ（会員126名/139名）。
- ⑤ 参加費の徴収は、WEB聴講者のうち会員は年会費請求時に年会費と共に事務局から一括請求、非会員は銀行振込（振込手数料は参加者負担）、会場参加者は会場支払いを原則としたため、会計処理をスムーズに行うことができた。

【課題】

- ① 当日にTeamsが接続できないとの問い合わせが数件あり、電話、メールによる対応を行った。
→Teams接続のURLが長く、途切れていたためうまく接続できなかった模様。途切れていた場合は、1行にして接続するようにコメントを入れていたが、理解していただけなかった模様。
- ② 音声機器の接続方法はBluetoothを使わず、ケーブル接続方法に見直したため、各会場から「ハウリング」や「音が小さい」といったトラブルは挙がっていない。しかし、WEB聴講者のごく一部からは「聞き取りづらい」、「音声が一部とぎれる」といったコメントもあった。（聴講側の通信環境の可能性あり）
→ケーブルは中国本部会議室にあるものを繋ぎ合わせて利用したが、今後のためにきちんとしたケーブルを購入する必要がある。
→音声機器、PCなどの接続に関するメモを作成することで、以降同様の運用が可能に。
- ③ アンケートで会員発表を募ったところ6名の希望者があった。
→次回の会員発表者の確保に向けて、メールで確認するなどの対応を行う必要がある。

以上